

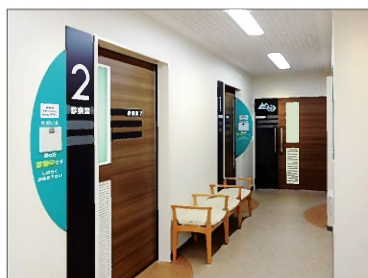


ARCHITECTURE REVIEW



建築見て歩記 その109 追悼：原広司1936-2025 88歳永眠
「飯田市美術博物館」で、街の中心部の丘の上に建っています。原広司の設計で、1988年に完成しました。当時の原氏のコンセプトである「様相」をキーワードに、ひとつとして同じものがない、独特の意匠が、あらゆる場所に設えられており、その意図までは理解できないものの、独自の空間となっています。屋根は、ここから見える山のシルエットを写しています。

CURRENTLY WORKS



クリニックの改修…「変えないデザイン」その1

永年、ドクターご夫婦お二人で、地域の方々の健康を守っていましたが施設の経年劣化を見直す視点での改修に携わりました。高齢化した患者さんが多く、ご意向としては現状維持を望まれました。機能的な更新や使い勝手の見直しを主眼として計画が進み、大きく変わったのはサインデザインくらいで、「変えないこと」の意味を考える機会となりました。

PRIVATE TOPICS



太田のアート探訪記 その25

山梨県北杜市の「中村キース・ヘリング美術館」は2007年に芸大出身の北川原温の設計で開館しました。キース作品に特化した美術館ですがその展示に重ねて、彼の哲学や美学を展示する建築展が、来年5月までここと、近隣の彼の作品「ホテル・キーフォレスト」「小淵沢駅」で開催されています。「建築展」でありつつ「アート展」でもあると感じました。

EDITORIAL NOTE

夏には「怪談」が付き物です。これはお盆にご先祖様が帰って来ることに関連して、怨霊や無縁仏も成仏できずにさまよい、その恨みや苦しみを芝居にしていたことからのようです。ですのでこの時期に盆芝居、盆狂言が演じられました。「四谷怪談」「皿屋敷」「牡丹燈籠」は、三大怪談として有名ですね！

編集担当：太田・藤原、監修：岡島